

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	かぎ付きはしごによる上階進入訓練中、登っている隊員が地上に墜落した事案
3. 体験した事例の中心的要素	<ul style="list-style-type: none"> ・かぎ付きはしご登っている中、かぎ部分が外れ、かぎ付きはしごが落下し同時に登っている隊員も墜落した。 ・隊員墜落前の訓練では3階バルコニーからかぎ付きはしごを隊員2名で架け、ロープ確保員を3階に配置して実施していたが、その後の訓練で、想定と進入方法を変更し、3階に至ることなく4階への進入を実施した最初の訓練であった。 ・3階部分は進入口(ベランダ)が無く、三連はしごをかぎ付きはしごを使用し4階開口部に進入するという想定としていたため、ロープでの確保は3階の直下階ではなく地上で実施していた。 ・確保ロープの上部支点はかぎ付きはしごの横さんに通していたため、かぎが外れたと同
4. 体験した事例の原因・理由	<ul style="list-style-type: none"> ・かぎの掛かり具合の確認不足、安全管理員の配置不足。 ・安全管理員による上階からの確保ロープによる二重安全措施の不適。 ・安全マットの未配置。

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の実行に問題があった。(誤った手順を取った等)
------------------	---------------------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	令和5年11月3日 午後4時頃
2. 発生した当時の天候	雨
3. 発生した活動現場	屋外: 7階建て訓練塔(RC造)4階バルコニー
4. 体験した事例の種類	回答者が、他人を負傷させた。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	重傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	墜落・転落
7. 事例体験時の活動	演習訓練、[救助(通常時)]
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	登はん訓練
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[25]歳、勤続年数[6]年、現場経験年数[0]年、階級[消防士長] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[] 同様の活動 []、任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[] 同様の活動 []、任務 []
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	かぎ付きはしごを担ぎ、三連はしごを登てい	
経過2	当事者A	かぎ付きはしごに乗り移り登ていし墜落	
経過3			
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？
- ヒヤリハットの場合: ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった 集中力、注意力がなかった

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

かぎのかかり具合の確認方法が不適であった。

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

事故調査委員会を立ち上げ、事故の原因とこれに至るまでの要因の調査を実施。原因、対策を明確にするまで高所における訓練の一時中止を行った。再発防止策を検討し全職員に周知、徹底した安全管理のもと訓練を実施するようにした。

○装備・資機材の対策について

かぎ付はしごのかぎ部分に設定していた被覆用ゴムホースについては、確認時誤認の恐れがあるとして撤去した。

○活動環境の対策について

高所での訓練は必ず安全管理員を各位置に配置し複数人による目視確認と、安全マットを複数配置し適宜設置位置を変更できるようにした。また悪天候など気象状況に応じて訓練を中止するなど対応をとることとした。またかぎ付きはしごによる上階への進入訓練を行う際は、進入隊員の確保を上部からも行うなど二重の墜落防止対策を講じることとした。

○指揮・情報伝達の対策について

安全管理体制の確認と安全意識向上のため定期的に安全管理教育を実施するなど対策をとる。

事故発生状況図

発生日時 令和5年11月3日（金）15時55分頃

場 所 ██████████
██████████出張所消防訓練所 主塔西側

気 象 天候 曇り一時雨
日没時間 16時30分

概 要 訓練者5名にてかぎ付きはしごを活用した上階への進入訓練を行っていた際、訓練塔4階バルコニーに掛けたかぎ付きはしごを登っていた中、かぎ部分が外れ、高さ8.5m付近から地上へ墜落し負傷したものの。



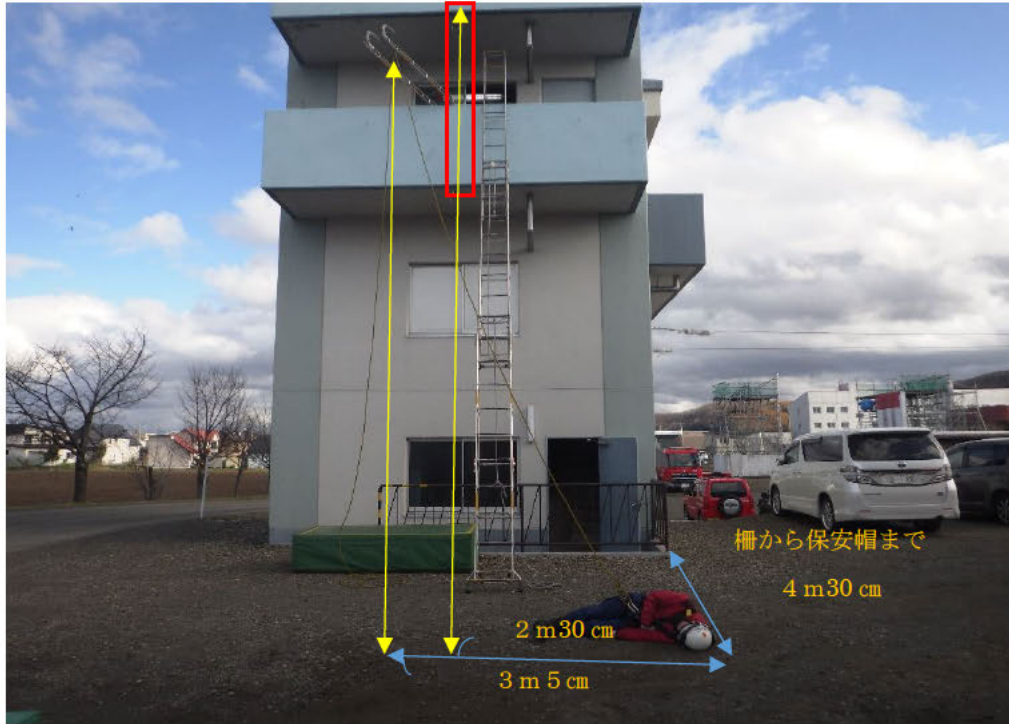
①訓練時の隊員配置状況



②墜落時の状況



③墜落時の状況



④墜落箇所状況